

Digest of Science of Labour

労働の科学

2 0 2 3

June

Vol. 78, No. 6



動く木の彫刻 / 菅沼 緑

特集

誰もが生き生き働き続けるために

地域から発信し続ける92歳現役記者 / 涌井友子
障害のある人もない人も働くことが当たり前の社会へ / 武田 元

(財)海上労働科学研究所の解散に想う
斉藤 進

特別寄稿

働く障害者に寄り添う社会の
実現を目指して
武田 元

巻頭言

連載

労研アーカイブを読む ⑧
椎名和仁

漂流者たち—クミジヨの肖像 ②⑦
本田一成

つれづれなるままに ⑪
千葉百子

ILOインド南アジア産業保健通信 ⑥
川上 剛

「#教師のバトン」で伝わる教職員の過酷な勤務環境 ②④
藤川伸治

労働の科学



巻頭言

俯瞰 (ふかん)

働く障害者に寄り添う社会の実現を目指して 1

武田 元 [社会福祉法人はらから福祉会 前理事長]

表紙作品：菅沼 緑 [動く木の彫刻]
材料：ムクの木材
会場：ときわ画廊 (東京・神田)
年度：1978年
撮影：安斎重男



誰もが生き生き働き続けるために

地域から発信し続ける92歳現役記者

東京・中野区発「週刊 とうきょう」

..... 涌井 友子 4

障害のある人もない人も働くことが当たり前の社会へ

..... 武田 元 8

Special contribution

特別寄稿

(財)海上労働科学研究所の解散に想う

..... [公益財団法人大原記念労働科学研究] 齊藤 進 16

Series

ILOインド南アジア産業安全保健通信 (6)

地球温暖化と産業安全保健 川上 剛 22

Series

- 「#教師のバトン」で伝わる (24)
教職員の過酷な勤務環境 藤川 伸治27
- 漂流者たち クミジョの肖像 (27)
『クミジョ白書2021』 (4) 本田 一成30
- 労研アーカイブを読む (88)
疲労は生理的・社会的なもの 椎名 和仁32

Column

- つれづれなるままに
国際赤十字社と日本赤十字 千葉 百子38
- 自由と想像 (6)
彫刻に向かって 菅沼 緑 44
- KABUKI
新歌舞伎十八番の内 船弁慶
 歌舞伎で生きる人たち その甘——芽吹く若葉 湯浅 晶子46
- Talk to Talk
凡なりに 肝付 邦憲48
- BOOKS
『日本経済読本 [第22版]』
 日本の経済を知ろう！ 椎名 和仁50
- 『DXと人的資本』**
 理論的に言及しながら、事例を用いて分析 鵜崎 清貴51
- 労働科学のページ53
- 次号予定・編集雑記 64

働く障害者に寄り添う社会の実現を目指して

武田 元

私はこの6月、社会福祉法人はらから福祉会理事長を退任しました。はらから福祉会は無認可時代を含めると40年の歴史があります。私は立ち上げに参加し今日までいろんな形でかかわってきました。理事長は平成18年からでした。この40年間こだわってきたことは、障害があつたとしても、どうすれば働いて暮らせる賃金を手にできるかです。

私が最初に障害者の賃金を意識したのは昭和45年、教員として勤務したA養護学校時代です。職員研修で入所施設を見学に行った時のことです。秋口の雨が降る肌寒い日でした。電気はついていましたが薄暗い部屋で何もせず椅子に座っている人たちがいました。仕事がなくなつて休憩しているとのこと、聞けば1ヵ月働いて手にする給料は3,000円から5,000円だという。在校生の将来の姿を見せられたようで暗い気分になつたことを今でもはっきりと覚えています。それから50年、令和3年度就労継続B型事業所、全国14,393事業所の平均月額工賃は16,507円です。1万円に満たない人もいます。B型事業所は比較的障害の重い人が雇用契約を結び、施設を利用して働く福祉サービスの一つで最低賃金は適用されません。制度上3,000円以上工賃を支払うことになつていきます。

うか。誰も自ら望んで障害者になつたのではありません。障害者として生きる彼らは人生かけてあるべき姿を世に問いかけています。おかげで世の中は少しずつ住みやすくなつてきています。段差の解消やエレベーターの設置はその一例です。いわば障害者は同世代の代表選手です。代表して生活上の問題を世に問うているとしたら、それをバックアップするのがその他全ての人の責務です。

人は皆働いて生計を立て社会の役に立ちたいと思つています。障害者も例外ではありません。確かに障害の重い人が働いて付加価値を生み出すためにはさまざまな問題があります。しかしそれは乗り越えられない壁なのでしょうか。私にはそうは思えません。

人は一人では寝返りもできない状態で生まれてきます。天寿を全うするころには要介護の状態になります。今を生きる障害者の姿は過去の自分であり未来の自分であるということが出来ます。他人ごとではないのです。B型事業所の低工賃は社会的に解決しなければならぬ課題です。

人は皆、働いて生活の糧を手に入れられます。これは当たり前のことです。この当たり前のことが当たり前のこととして実現していないのがB型事業所の低工賃です。原因の一つは仕事の選び方です。障害の実態に合わせてできる仕事を選ぶのが



たけだはじめ
社会福祉法人はらから福祉会 前理事長

が一般的です。この考え方を変える必要があります。障害の実態に関係なく支給したい工賃が支払える仕事を選ぶことが必要です。B型事業所を利用するか、就職するかは関係なく、暮らせる収入を得ることが求められるからです。

単純粗大作業が適していると言われる障害の重い人が質の高い仕事ができるようになるためにはどうすればよいのでしょうか。障害の重い人の作業能力を高めることでしょうか。それも一つの方法ですが、それでは遅々とした歩みで目標に達することはできません。ではどうすればよいのでしょうか。そう簡単ではないでしょう。しかし、困難なのは困難なだけですが、不可能とは違います。いずれにしても1万円にも満たない収入で仕事をしている人をなくす取り組みが必要だと思つていますが。

